

# カトリック六甲教会 教会報

2007

2  
No.422

## 2月の予定

		教会暦	教会行事
2	金	主の奉獻	初金 7:00 10:00ミサ 婦人会総会と親睦会
4	日	年間第5主日 殉教者を想い、ともに祈る週間(11日まで)	結婚準備セミナー開始(2/25まで) 17:00 海星病院集会祭儀
5	月	日本26聖人殉教者	
6	火	聖アガタおとめ殉教者	
10	土	聖スコラスチカおとめ	
11	日	年間第6主日 世界患者の日	病者の秘跡 (全てのミサで) 10:15 小教区評議会
14	水	聖チリロ隠世修道者 聖メジオ司教	
18	日	年間第7主日	
19	月		14:00 三日月会 ミサと例会
21	水	灰の水曜日 (大斎・小斎) 四旬節愛の献金(四旬節中)	7:00 10:00 19:00 ミサ (各ミサ中に灰の式)
22	木	聖ペトロの使徒座	
24	土		14:30 教会学校ホールミサ
25	日	四旬節第1主日	17:00 海星病院集会祭儀
26	月		11:00 ベビーとママの集い

## 摂理か偶然か

昭和20年8月15日終戦の当日、私は中学1年生でした。当時焼け野原となった名古屋で、中学生として焼け跡整理という作業で、戦後という新しい生活が始まりました。終戦当時、まだ信者でもない私は、神奈川県藤沢市にあるカトリックのシスターが経営している施設に預けられました。私のキリスト教との最初の出合いでした。場所は旧ゴルフ場跡に立てられたベビーホーム、母子ハウス、小学生・中学生たちの世話をする広い施設でした。

戦後の何も無い時代のことゆえ、色々の家庭から多くの子供たちが集まって、世話になっていました。中学生で阿部謹也君という、のちに一橋大学の学長とな

られた方もそのひとりでした。彼は近くの公立中学校へ、私は私立中学校へ通っていました。シスターの世話になるようになって2年目頃、私たちは聖書の勉強を始めました。そして、私は藤沢の修道院の聖堂にてイエズス会の神父より、彼は東京の上野にて、レデンプトール会の神父より、それぞれ別の日に洗礼を受けました。その頃私たち二人の間では、何かと宗教的な話がはずみ、心を分かち合っていくという時間が多くなってきました。中学生の子供であった私たち二人は、将来神父になりたいという考えを打ち明けられるようになってきました。二人で色々と将来のこと、教会のことを語り合うような間柄に成長していきました。

ある夜、二人でそのような話をしていた時、中学生で未熟な子供である私は、阿部君に「君は神父になるよりも、何か他の仕事に招かれているような気がする。」と、生意気にも思っていたことを打ち明けてしまいました。すると彼はしばらく沈黙して考えていた様子でしたが、「そうか、ありがとう。」と言って、自分の部屋に帰って行きました。

私たちは中学校を卒業し、藤沢を離れ、私は大阪の明星高等学校に進学しました。彼は東京の石神井高等学校へ進んだと聞いています。その後彼は一橋大学に入学し、後に教授になりました。私は上智大学へと進み、イエズス会に入会して、司祭に叙階された後、六甲学院で27年間教鞭をとり、退職後は六甲教会のお手伝いをして、今日に至っております。一方

彼は学者として、我が国のドイツ中世史の分野において、重鎮と称されるまでになり、たくさんの本を著しました。そして一橋大学の学長を務め、学長を務め終えた後、昨年(2006年)71才というお年で天国に召されました。

学長となられて、一度もお会いしたことはありませんでしたが、私は彼に「君は司祭にむいていないような気がする。」と言ったことは、何か重い責任のようなもの、また恥ずかしいような気持ちがありますが、これは神さまの摂理だったのでしょうか、偶然ともいえることだったのでしょうか。それは神さまのみがご存知であると、今では信じております。

最後に阿部謹也先生のために祈りたいと思います。「先生どうか安らかに眠って下さい」と。 安芸瑛一神父

---

## 各 部 会 だ よ り

### 👉 壮年会

恒例の新年会・総会が1/14(日)9時のミサ後、第1、2会議室で開かれました。まず、ひさしぶりにお顔を見せて下さった方の自己紹介があり、桜井主任司祭のご挨拶にひきつづき2006年度の活動報告と収支報告が行われました。壮年会の役員任期が今期だけ変則になる(07年3月まで)ので今回の収支報告は中間報告です。

さらに来年度の新役員が紹介され、それぞれご挨拶をいただきました。新会長は川合弘一さん、副会長は福田信三さん、井川直哉さん、綿貫成明さん、船井孝祐さんです。新役員の任期は07年4月からになります。4月の例会を新役員で開き、その時点で06年の決算を現役員が報告することの承認を得ました。したがって今後は決算総会は4月になります。

壮年会のあり方について意見の交換など自由な論議を経たあと、新年会パーティーに移りさらに懇親を深めました。

男の料理教室 2/7(水)10時から

### 👉 婦人会

#### 1 < 聖堂掃除当番について >

聖堂の掃除当番が新しくなって、2月からスタートいたします。

以前に登録して下さったグループ(金曜日の午後、土曜日の午前、日曜日11時ミサ後の各グループ)ごとに連絡網を作りました。イグナチオホールに置いてありますので、各自自分の名前にをつけてお取り下さい。

また、婦人会の地区ごとの当番表はそのままお持ち帰り下さい。

#### 2 < 2月の聖堂掃除当番 >

2日(金)中3・4・5

9日(金)午後 1班

17日(土)午前 2班

23日(金)東1・2・3

午前はいずれも午前9時30分からです。初金の日グループで相談して別の日か、9時からして下さい。

午後のグループは午後1時30分からです。

登録していない方も、ぜひ一緒に私達の教会をお掃除いたしましょう。たくさんのご参加お待ちしております。

### 🙏三日月会

<例会>

2/19(月) 14時～ ミサ  
実務体験解説 李 神父  
ビデオ鑑賞

### 🙏青年会

<定例会>

- ・ 2/11(日) 12:30～14:00 第3会議室  
内容：聖書を読んで分かち合い
- ・ 2/25(日) 12:30～14:00 第3会議室  
内容：聖書を読んで分かち合い  
初めての方もお気軽にご参加下さい！

### 🙏典礼部

聖週間の典礼準備について

受難の主日(枝の主日)および聖なる過越の3日間の調整とりハーサルを、3月25日(日)13:30より大聖堂でおこないます。

被洗足者は、三日月会2人、壮年会2人、婦人会2人、青年会1人、教会学校・子供2人、教会学校・リーダー1人、中高生会2人をお願いすることになりました。

聖週間の典礼当番表は、決定後掲示板に掲載しますのでご確認ください。

### 🙏社会活動部

2月の社会活動部連絡会の日程は、未定です。決まりました時点でお知らせを致します。年度末に向け、色々ご相談もありますので、その折にはご出席を宜しく御願い致します。

## ザビエル・ハウスの改修工事について

主任司祭より

イエズス会の六甲共同体について、掲記工事に係わる新しい変化をお知らせ致します。

(1) 六甲学院(篠原伯母野山在)の修道院に住んでいる赤松神父とブラザー・メルシュの2名は4月から「ザビエル・ハウス」(修道院)に居住することになりました。

(2) そのため「ザビエル・ハウス」の改修が必要となり、まず1階正面玄関前まで自動車が入れるように駐車場からのスロープを整備し、建物内は会員の個人部屋増設や台所拡張などの工事を2月から行うことになりました。改修後も現在の応接間や北側集会室は残りますが、大きなグループの場合は同敷地内にある生徒研修所を使用するよう学校宛に申請して下さい。

(3) 新年度4月からザビエル・ハウスでは、六甲学院で働く赤松神父とブラザー・メルシュ、および当教会の協力司祭である安芸神父とオマリー神父の計4名が居住することになります。教会3階の司祭間に住む会員も従来通り、共同生活(ミサ・夕食前の祈り・食事・会合など)のためザビエル・ハウスに集まります。

(4) 上記4名の会員への連絡や訪問のため、「ザビエル・ハウス」の住所・電話番号は次の通りです。

〒657-0068 神戸市灘区篠原北町1 8 25 ザビエル・ハウス

TEL:(078)801 0616 FAX:(078)801 0629

以 上

## <お 知 ら せ>

このコーナーでは所属部会の枠を超えて、みなさまに広くお知らせしたい事項を掲載しています。教会の掲示板にも同様のお知らせが多数ありますので、あわせてお読みください。

### 【養成部より】

「哲学入門」第五回 2月24日(土) 10:30~12:00

テーマ： 自由の哲学 ~自由と悪との関係~

講 師： 英知大学教授 奥村和滋先生

場 所： ザビエルハウス

受講料： 一般1000円、学生300円

\*途中から受講される方、大歓迎です。

### 【社会活動部より】

2/7(水) 10:00~ 手芸の集い (於:第1,2会議室)

今月は毛糸で小物を編みます。鉤針(6~8号程度)又は棒針(中細~並太対応程度)お持ちの方はご持参下さい。(全員分の針の用意が出来ませんので)お持ちでない方もどうぞご参加下さい。

2/10(土) 10:00~ 炊き出し

教会台所で準備し、用意の出来次第、小野浜公園に移動致します。お寒い時期ですが、ご協力宜しくお願い致します。

2/18(日) 10:00~ 手作りコーナー (於:イグナチオホール)

毎月恒例の手作りコーナーを、イグナチオホールにて開きます。お弁当ほか手作りの食品、小物等の販売を致します。是非お立ち寄り下さい。

2/23(金) 14:00~ おにぎり作り(於:教会台所)

須磨方面夜回り支援の為に作ります。ご協力を御願い致します。

昨年 12 月 25 日主のご降誕の日、2 歳の女の子を含む 5 名の方が受洗されました。  
喜びと感謝の声が届きましたので、ご紹介いたします。



昨年 12 月 25 日、桜井神父様から洗礼を受け、皆様方の仲間に入れていただきました。中学生の頃通っていた日曜学校の牧師さんから洗礼を奨められて以来、約 50 年間「つまづき」の連続でしたが、65 歳になってやっと「神の恵み」に出会うことができ、この上ない喜びと感謝で一杯です。

一昨年 10 月からカトリック六甲教会のミサに参加し、また昨年 4 月から桜井神父様の聖書研究会にも出席していますが、その間温かく見守っていただいた桜井神父様をはじめ皆様に厚くお礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。  
(イサク 柁木)

初めて教会に足を踏み入れた昨年の 3 月から受洗まで、私の道程は自分一人のものではないと思っています。勉強会では安芸神父様より、書物の中だけでは感じる事の出来ないミサの意味を教えてくださいました。また、共に歩む方々の笑顔に支えられて来ました。この恵みと実りの一年を与えられたことに感謝しています。

まだ出発点に立ったばかりですが、今後ともどうぞよろしくお願いたします。(モニカ 松島)

昨年のクリスマスというありがたい日に、永年の希望が叶い、受洗させて頂きました。この機会を与えて頂いた方々のご厚情、ご指導、そしてすべての出会いに感謝したいと思います。

私はカトリックの幼稚園に通っていたこともあり、キリスト教は幼い頃から身近な存在でした。これまで常に、判断や選択、人生自体に悩んだ時に、神さまはいつも近くに寄り添ってくださるかけがえの無い存在でした。

幼稚園時代、私は神父様（園長先生）のお話を教会に聴きに行くのが楽しみで仕方ありませんでした。週に数回、お座布団に正座し、「今日のおはなしは何だろう？」と、いつもワクワクしていました。当時かなりのお転婆だったようですが、この時ばかりは「良い子」になれる満足感でもあったのでしょうか？私の人生の最も楽しかった大切な思い出のひとつです。

ミッション系の大学では、多くのシスターに出会い、たいへん多くのことを教えて頂きました。そのことも、私の信仰は大きな影響を受けたと思います。

娘が二つになった頃から、寝る前に小さな手を組み、「かみちゃま。きょうもありがとうございます。あちたもいいこでいられますように・・・アーメン。」と片言でお祈りをするようになりました。純真な子供の目には、神さまが見えていて、本当に神さまとお話ししているようで、心打たれます。

二男が、四歳の頃に習ったばかりのひらがなでつづった冊子『おいのり』があります。これは私にとって、とても大切な宝物です。その一ページ目には、次のように書かれています。「かみさま だいすきなかみさま わたしのいのりを きいてください イエスさまのみなによって アーメン」

知識も経験も足りない私には、まだまだわからないことばかりです。ただ、今私が求める信仰は、子供たちのように、純真な心で神さまに向かい、神さまの存在を確信すること、そして、ありのままの自分を問うこと、それらをずっと忘れないことです。

今あることすべてに感謝すること。どんなことがあったとしても、神さまがお与えくださったこととして感謝すること。そんな自分でいられることが目標です。

まだまだ信仰の不十分な、至らぬ母娘ですが、どうか皆様には今後ともご指導いただけましたら、幸いです。

最後になりましたが、桜井神父様、勉強会を続けていただいた藤原さん、阪田さん、代母をお引き受け頂いた橋岡さん、本当にありがとうございました。

（セシリア 志賀・小さき花のテレジア 志賀）

昨年のクリスマスにプロテスタントからの改宗を受けました。プロテスタントの洗礼を受けたのは幼児の頃で、それ以来、教会からは離れた生活を送っておりました。今回の改宗のキッカケになったのはカトリックの彼との結婚でしたが、その数年前から、全く教会とは関係のない所で、代母となった藤井さんとの親交が続いていました。とても自然に改宗する気持ちになれました。大好きな人たちと、より近づけたと思います。

当日は少々緊張しましたが、勉強会でお世話になっている桜井神父様にお導き頂き、リラックスできました。これから私の信仰生活が始まります。

（クリスティン・マリー 神矢）

## 1月7日、恒例の新年会が行われました。

新年会では、大勢の方々と新年を祝い、新成人を祝い、ゲームをしたりおしゃべりをしたり、とても楽しく過ごしました。転入者として、皆様に紹介して頂いたことは、私にとって特に大きなことだったと思います。

お話に“家族”ということがありましたが、和やかな雰囲気の中に活気が感じられて、六甲教会の家族の一員になれたことを改めて嬉しく思いました。  
(青地)



やはり一番の盛り上がりはビンゴ・ゲーム



3人で賞品をがっちりGET!

～原稿募集のお知らせ～

### みなさまからの寄稿をお待ちしています。

昨今、「信徒奉仕職」の重要性が頻繁に取り上げられています。1月号の主任司祭・評議会議長のお知らせにもありましたが、信徒一人一人が、それぞれの場所でその使命を果たし、祈りを捧げることも奉仕職の大きな支えです。

広報部ではその一環として、教会報誌面に、信徒が自由に信仰の分かち合いのできるコーナーを設けたいと考えました。これは、集会や行事の報告・感想とは別に、テーマにとらわれることなく、みなさまが日々の暮らしを通して感じたことを分かち合っていただく場所です。題して「みんなの広場」です!

今日散歩の途中こんな素敵な光景を見た、昨日こんな素晴らしい方と知り合った、職務の厳しさを通じてこんなことを思った、こんな映画を観てこう感じたなど、仕事・家事・育児・闘病など日常のくらしの中で、神さまを感じる瞬間は多々あると思います。教会報の場を借りて、そんな瞬間を一緒に分かち合いませんか? 寄稿することで、またそれを読むことで、主の福音に目を留め、述べ伝えてみませんか?

みなさまの寄稿をお待ちしています。原稿は広報部宛で教会受付にお届けください。手書き、ワードデータ、メール、ファックスいずれの形で受け付けいたします。  
(広報部)

## この世の「暗闇」と「光」 (スリランカの茶摘の労働者との出違い)

あけましておめでとうございます。昨年の9月より、6ヶ月のイエズス会における第三修練のプログラムの関係で、スリランカに滞在しています。「アイボン：お元気?」「イストゥティ：ありがとう」という位の挨拶を覚えています。それ以上は手ぶりでこちらの人々と会話を交わします。スリランカ人は普段3つの言葉(シンハラ、タミル語と英語)で話しているのは確かですが、特にスリランカタミル人は殆どシンハラとタミル語をマスターしています。

タミル人と言っても、2つに区別され、スリランカ出身のタミル人とインド出身のタミル人です。スリランカ出身のタミル人の人口は北部と南部に集中されています。ニュースによく言われる LTTE (Liberation of Tigers of Tamil Eelam) は、少数民族のスリランカ出身タミル人の独立運動の組織の名前で、「Eelam」という表現はスリランカを意味するタミル語です。

スリランカ出身タミル人と違って、インド出身のタミル人は、英国の植民地時代に南インドから連れ出されたタミル人とその相続人たちです。インドでは、このタミル人たちは一番低いカースト制度に入り、社会・経済と政治的に差別された者たちでした。英国の支配者たちは茶摘の労働者のために、「スリランカはミルクと蜜のところである」と彼らを騙して、1840年頃南インド出身のタミル人を大勢スリランカに連れてきました。その後、100年以上にわたって、彼らは同じ狭い貧しい環境に住み続けています。

昨年の12月中、15人の第三修練者達は(8カ国：インド、バングラデシュ、マレーシア、韓国、インドネシア、ハンガリー、ベルギーと日本)一ヶ月の自習をしました。私自身はインド出身のタミル人の茶摘の労働者の「Community Building」を研究し、ヌワラ・エリヤというところに住みました(スリランカでは一番の高地で寒い地域)。

何世代にわたって、英国の植民地時代(1858)から、ヌワラ・エリヤのような地域は茶畑に改築されました。茶摘の労働者は2つに分けられ、茶摘の住民者(インド出身のタミル人とその相続人、主に98%ヒンズー教徒とその他はキリスト教徒)と近隣の労働者(主に、スリランカ人の仏教徒)です。住民の労働者は茶畑の敷地に住み、家の家賃と光熱費などを無料でもらいますが、その代わりに、住民でない人々より、低い給料で日雇いをします。

茶畑の経営者は、位階制度で彼らを管理し、茶畑の最高の結果を出すために、あらゆる方法と手段でインド出身の労働者を一日中茶畑と工場に縛り付けています。彼らを外のつながりから孤立させ、移民の身分のままにしています。彼らをそのような奴隷のような立場にしていることは、強制労働の目的を達成するためです。茶畑の住民者たちの平均寿命や読み書き率や栄養上の状況などは、近隣の村人や全体のスリランカ人より、とても低く、貧しい生活しています。茶畑の経営者に、彼らは完全に依存しています。それは、あくまでも茶畑の経営者の意図的な管理の作戦でもあります。

茶畑の住民者の3割は「横アパート、line-room」と呼ばれる6平方のアパートに住んでいます。つまり、一つの横アパートに3つの家族が住み、核家族は2平方の部屋に分かれています。彼らを訪問したときに、10人の家族と知り合いました。あの狭い部屋に閉じ込められる彼らの姿を思い出すたびに、私は言葉に言えないほど悲しさを感じています。

最近、スリランカ出身タミル人の独立運動で、スリランカは内乱やテロの問題に次々巻き込まれています。そのような長期間の国内対立はスリランカの茶の値段を落としていますが、実際にその独立運動はインド出身の茶摘の労働者とまったく関係していません。逆に、その様な内乱戦争は、彼らのよりよい将来の夢を奪いつつあります。

茶摘のインド出身タミル人の実情を知る前は、全てのタミル人はLTTEだと思ってしまいました。し

かし、彼らの生活に身近に接して、考えられないほどの事実を次々知るようになりました。まず、移民のままの状態は政治的に彼らの立場に影響し、国会議員の誰も彼らを代表しません。そして、何世代にわたっても、毎日ただ単に茶摘をして、約40ポンドの葉を摘む仕事以外はありません。彼らの人生はあの茶畑の暗闇に組織的に縛り付けられて、周りの世界から意図的に孤立させられているのです。多くの外国（中国、日本と韓国）はスリランカから茶を大幅に輸入して、楽しく味わっていますが、それはインド出身のタミル人たちの一日の働き（1ドルの日雇いの給料又は一ヶ月の30ドルの給料）のおかげです。

ヌワラ・エリヤの茶摘の労働者と出会ったことは未だに私に深い影響を残しています。茶摘の労働者たちは、多くのスリランカ人の影の中を歩んでいるように見えます。しかも、現在のLTTEの対立の問題で、スリランカ政府は影の「暗闇」に孤立したままのインド出身の人々の人生を見る余裕がなくなっています。

確かに、鏡なしで、私たちは自分の「影」を見ることはできないでしょう。インド出身の茶摘の労働者たちとの出会いは私の鏡になりました。孤立された彼らの苦しみを感ずて、「おそらく、私の人生の中に同じような事柄があるかもしれない」と、そのような問いかけは、しみじみ私の心に響いています。日本の社会は私たちに良い生活を作ってくれます。そんな中で、スリランカ茶摘の労働者のような他人の人生を見ることは難しいかもしれませんが、一度、この世の影の暗闇に苦しんでいる多くの人々の人生を見る「余裕」と「勇気」ができれば、きっと私たちは彼らに手を伸ばすことができるでしょう。この2007年に私たちの手がかつと多くの人々をこの世の暗闇から連れ出すことができたら、そして彼らがこの世の「光」を見ることができたら何よりも幸いです。

バンバン・ルディアント神父

## 📖 図書紹介

---

### 「信仰について

#### ラッツィンガー枢機卿（現教皇）との対話」

V.メッソーリ著

ドン・ボスコ社

2006年1月25日にベネディクト16世のはじめの回勅「神は愛」が公布されました。この回勅によって私たちは改めて、新しい教皇の精神の中心にあるものをはっきりと認識したわけです。それで、教皇の考え方や、どんな方であるかを知りたいと考えてこの「信仰について」という本を読みました。これは21年前、教皇が枢機卿であった時代に、ジャーナリストであったメッソーリがインタビューして、記録していたものですが、たとえ21年もたっているとしても、教皇の基本的な考えは変わらないでしょうし、その人となりや考えは伝わってくると思います。もし興味があって、お読みになれば、依然として今日的である問題についても、教皇の

考えを窺い知る事ができます。

内容は、「第二バチカン公会議について」、「信仰の危機、教会の危機について」、「種々の危険信号について」、「道徳の悲劇について」、「女性について、マリアについて」、「今日の霊性について」、さらに「典礼について」、「終末について」、「エキュメニスムについて」と簡単に書かれています。最後に宣教の精神として「真理は開放し、救う知識である」と明言し、「神はすべての人々が救われて、真理を知るようになる事を望んでおられる」という聖パウロの言葉が述べられています。既に教会について知っておられる方におすすぬめしたい本です。

（三輪）

## 『カトリック教会のカテキズム』を読む会

### ファリサイ派は大悪人か

「知ってるつもり?」というテレビ番組がありました。カトリック教会の教えについて知ってるつもりになっていますが、『カトリック教会のカテキズム』を読んでいると気づかされることが多いのです。

一つだけ例を挙げます。『カテキズム』の中に次のように書かれています。「ファリサイ派の人々とイエスの間には、論争上の対立をするという関係があっただけではありませんでした。現に、あるファリサイ派の人々は、危機が迫っているとイエスに警告しています。また、イエスは、マルコ 12 章 34 節に登場する律法学者など、ファリサイ派のある人たちを称賛し、また何度もファリサイ派の人々の家で食事をしています。イエスは、神の民の宗教的エリートである彼らの幾つかの教説を認めます。

たとえば、死者の復活、施し、断食、祈りなどのような信心業、神を父と呼ぶこと、神への愛と隣人愛とを主な掟として認めることなどです。」(575 項) このように教会がファリサイ派の人々に一定の評価を与えていることは驚きでした。そしてこのことは教会の仲間同士の交流に、心の広さ、寛容の大切さを教えてくれます。

『カトリック教会のカテキズム』を読む会は一周年を迎えます。やっと 200 ページまで読んできました。必ずしも連続性は要求されません。どこかの部分だけ一緒に読んでみてもいいと思います。

毎月第一日曜の 9 時のミサのあと (10:15~12:00) 開催しています。  
お時間のあるときにご参加ください。

(桐原)

教会報月3月号の発行は、3月4日(日)です。

編集会議は2月25日(日)です。

記事原稿は、2月18日(日)正午までに信徒会館事務室へご提出願います。(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会

〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21

電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6

発行責任者 桜 井 彦 孝 神 父

編 集 広 報 部